



いしかわ
石川 おさむ
修〔市民創世会〕



アメリカ大統領選挙と衆議院議員選挙について

施策の継続と廃止について

産業支援について

- ・市内中小零細企業への支援

市民生活について

- ・生活支援
- ・区の在り方

北陸新幹線について

- ・鯖江駅周辺整備
- ・利便性の向上について

治水対策について

- ・神通川の整備
- ・日野川整備としゅんせつ



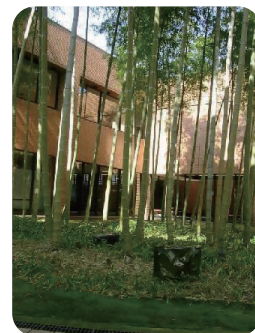
コンビニがオープンした鯖江駅

郷陽会館整備について

- ・費用対効果の検証
- ・見直しの必要性
- ・ランニングコストと指定管理者
- ・合意形成の在り方

教育行政について

- ・不登校といじめの現状と対策
- ・教員の多忙化との調整
- ・小学校の再編



郷陽会館の中庭

所得税非課税枠拡大について

- ・市税の減収額と地方交付税交付金への影響
- ・公共料金および各種市税、保険料等への影響

※詳しくはQRコードから
YouTubeをご覧ください。



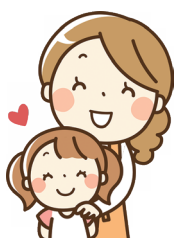
すえもと
末本 ゆきお
幸夫〔新清風会〕



子育てしやすい鯖江市について

問 0から2歳までの保育料について、鯖江市では第3子は無償としており、第2子についても今年の9月から無償化しているが、第1子から無償化してはどうか。また、ほかにどのような施策を考えているのか。

答 現在保育料を頂いている第1子の対象となる方が約500人おり、年間を通して1億4,000万円余が必要になると見込まれる。第1子の保育料無償化によって、保育所に入園している子育て世帯の経済的負担が軽減される一方で、0から2歳までの入園希望者が増加するという想定され、さらなる保育士の確保、増員が必要になる。まずは現在の受入れ体制の中で、希望される方が入園できる子育て環境を整備した上で、第1子の保育料無償化に伴う諸問題についても研究していきたい。また、中学校体育館や子育て施設への空調の整備、給食費の負担軽減、高校生や大学生まで対象を拡大させた市独自の子育て支援、多子世帯への支援拡充についても検討し、鯖江市が子育て世代にとって魅力的で安心できる場所となるよう、部局の枠を超えて連携しながら取り組んでいきたい。



鯖江駅周辺のまちづくりについて

問 北陸新幹線が敦賀まで延伸され、福井県に初めて新幹線が通ったが、特急がなくなり、鯖江駅の利用者が減少し、駅前が寂しくなり、鯖江市の独り負けのように言われている。現在、人流調査やアンケート調査等を実施し、鯖江駅周辺の整備計画の見直しについて検討している段階だと思うが、新幹線開業後8か月が経過し、鯖江駅の利用者数はどのように推移しているのか。北陸新幹線や冠山峠道路の開業効果などを見据え、今後、鯖江駅周辺をどのように整備していくのか。

答 北陸新幹線敦賀開業、冠山峠道路開通後の市内主要観光施設の観光入込数は、いずれも前年同期を上回っており、鯖江市全体において、北陸新幹線開業と冠山峠道路の開通による効果は出ているものと分析している。一方で、鯖江駅前周辺の人流は減少傾向が見られ、特に、県外在住者の減少率が大きく、新幹線開業によるマイナスの影響も出ていると認識している。鯖江駅周辺の整備については、鯖江駅周辺を点で捉えるのではなく、鯖江駅から西山公園までのエリアと、駅東側も含んだエリアを面で捉えることで、新たな流れを生み出すとともに、まち全体の活性化につながる発展的な周辺整備にも取り組んでいきたい。